



やさしく
かしこく
たくましく

平成28年11月30日(水)

文責：園田

学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

特大カマキリを見つけた・・・

先日、朝の登校時のこと。校門下の国道を松浦側（東方面）から坂を上ってくる低学年の男の子がいました。でも、いつもはかぶっている黄色の帽子を両手に抱えています。

近寄って来た時、『なんで帽子をかぶってないの?』と尋ねると、お腹の前で大事そうに抱えた帽子に視線を送ります。その視線の先、両手で大事そうに抱えた帽子には、大きな大きなカマキリがくっついていました。登校の途中でこの大きなカマキリを見つけたようです。

その大きさが珍しかったのかもしれませんが。友達に見せたかったのかもしれませんが。教室まで持っていったのでしょう。でも、あまりの大きさに手で持つのは怖かったのかも。あるいは大事に大事に運びたかったのかもしれませんが。大事そうに帽子を抱え、ゆっくりゆっくり歩くその姿。そして、その特大カマキリをじっと見つめる眼差し。なんということはない出来事なのですが、とても印象的な朝でした。



この男の子。その特大カマキリを見つけた時、いったいどんな気持ちになったのでしょうか。どんな気持ちで帽子に乗せ運んできたのでしょうか。驚き。わくわく感。大きさや形に対する興味・関心、命ある生き物に対する優しさや愛情。自然への畏敬の念。その小さな胸の中の思いは様々でしょうが、きっと心が動いたはずですよ。

出会い・・・出来事・・・心の養分・・・そして宝物

登校時の特大カマキリとの出会い。瑞々しい感性を持つ成長期の子どもにとっては、こんな出会いの出来事一つも、その感受性が豊かに育つ為の大事な経験であり、大事な養分、大きな宝物なのではないでしょうか。

子ども達だけでなく、保護者の皆さんも子どもの頃、登下校や遠足の時、道端の雑草を手にとって遊んだり（エノコログサ：通称ねこじゃらし）、通称「バカ」と呼ぶ雑草の種を投げてくっけたりして遊んだりしたことがあると思います。いろいろな虫を見つけて、いじって遊んだり、持ち帰って親に「早く捨ててきなさいっ!」と怒られたりしたこともあるのではないのでしょうか。



アリの行進や道路を渡るカニの行列に出会ったことはありませんか？ 雨の日、水たまりを見つけて、長靴のまま突入しグチョグチョになったことはありませんか？ 雨上がりの帰り道、空を見上げ美しい虹に出会ったことはありませんか？ そんな日常の中の様々な事象や現象との出会いや関わりが「感性」を育みます。

こんな出来事に出会い、「宝物」に出会えるのも、『歩く』という行動があるからこそだと思います。

そのゆっくりしたスピードや、自然の事象との距離感の近さが、色々なことに気づかせてくれるのです。

車でさっさと、スーッと通り過ぎてしまうだけでは、「気づく」こと、大切な育ちの機会を失ってしまいます。

一つの例を挙げましたが、子ども達が『歩く』ということには、様々な大きな意味と意義があるものです。

何が子どもを健やかに、そして逞しく育てる環境づくりにつながるか。そこを考えるのは大人の役割です。

平戸市立田平東小学校。本校は自分の足で、自分の力でしっかり歩く『徒歩での登下校』が基本です。